



魅力だより



No.5

R7. 3月

高校教育課学校教育生徒指導班

3学期も終わりを迎えようとしていますが、学校の様子はいかがですか。

今回は、No.2で紹介しました、県「魅力あるプロジェクト研究協力校」の南さつま市立加世田中学校、和泊町立和泊小学校のこれまでの取組、国立教育政策研究所の高橋総括研究官の講話を中心に紹介いたします。ぜひ、来年度の取組の参考にいただけるとありがたいです。

南さつま市立加世田中学校の取組（県「魅力ある学校づくりプロジェクト研究協力校」）

「授業に主体的に取り組んでいる」を重点項目に設定 → 学年毎に具体的な取組を協議し、共通実践

【共通実践】

- ・1年部・・・「授業の構え」の徹底
- ・2年部・・・「授業の流れ」の提示
「認め合う場面」の設定
- ・3年部・・・「振り返りの時間」の設定



意識調査「授業に主体的に取り組んでいる」
～**強肯定**の割合の変化～

	5月	11月
1年	56.9%	50.0%
2年	39.8%	45.5%
3年	50.6%	52.9%

- 授業の構え
二分前着席・一分前黙想、授業の準備
- 授業の流れ
学習順序と学習方法の提示
- 認め合う場面の設定
教師から生徒、生徒どうし
- 振り返りの時間の設定
「わ・で・か・い・も」の視点による振り返り



- 授業に主体的に参加する意識が高まり、忘れ物を減らすことにもつながった。
- 生徒が見通しをもって授業を受けられるだけでなく、教師自身が授業プランを立てやすくなった。
- ペアやグループでの交流を通して、お互いに認め合う場面を設定できた。
- 振り返りの時間を確保して毎時間記入させることで、生徒も教師も少しずつ慣れ、定着した。

成果

学年を軸にして共通実践に取り組んだり、授業研究を行ったりしたことが、教科の枠を超えた職員の主体的な研修参加に繋がっている。全職員で協議、納得して取り組むという流れを大事にして2年目の研修に取り組みたい。

和泊町立和泊小学校の取組（県「魅力ある学校づくりプロジェクト研究協力校」）

「学校が好き」という児童を育てる → 授業に内在化した生徒指導の実践 + 個別最適な学び

- ・3学年 算数科「分数」の授業 ～自己決定の場の設定の拡充～

〈学習方法の自己決定〉



友達と



先生と



1人で

〈練習問題の選択〉



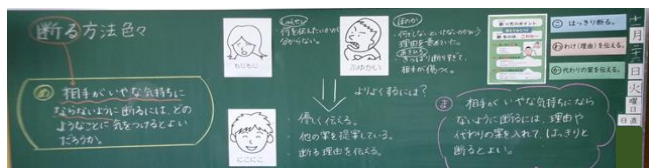
端末を使った個別課題



ドリルを使った協働的課題

「学校が好き」という児童を育てる → 特別活動に「ソーシャル・エモーショナル・ラーニング」を位置付け実践

- ・6学年 学級活動「断る方法いろいろ」：役割演技等をととして、相手が嫌な気持ちにならない断り方について学習



成果

授業に内在化した生徒指導の実践や個別最適な学びの推進、SELの実践を通して、「学校が楽しい」、「授業に主体的に取り組んでいる」、「授業がよく分かる」と感じている児童が増加した。来年度も、共通実践事項を再確認し、全校での取組をより充実させたい。

高橋総括研究官講話より（一部抜粋）

① 生徒指導の実践上の視点で授業を語ることの良さ

→ 学校種・経験年数、教科など、学校現場における「壁」を超えることができる。

② 子どもがやらない二つの理由・・・①やりたくないのか、②やり方が分からないのか？

・子どもは、「やり方がよく分からない」から「主体的になれない」場合がある。

→ めあてが大切！！ めあてが示されない授業では主体的になれない。

③ 大人が発揮してほしい「主体性」とその子なりの「主体性」はイコールではない。

→ 子どもにとって「主体的に」取り組む価値がある教材（仕掛け）が考えることが大切。

④ 自己決定と自己肯定感

→ 教えてもらって「わかった、できた」ではなく、自分で決めて「わかった、できた」方が、自己肯定感が高まる。

→ 自分で決めた場合は、失敗しても自己肯定感が下がることはない。

安心・安全な風土の重要性

<子どもがやらない二つの理由>

①やりたくない
②やり方が分からない
(何をやってよいか分からない)

「授業に主体的に学んでいる」と「授業がよくわかる」の関係

教師：「主体的に学ぶ」から「よくわかる」と考えがち
子ども：「よくわからない」から「主体的になれない」
「よくわかる」から「主体的に取り組める」

「めあて」が示されない授業では「主体的」になれない

「主体性」は誰のもの？

大人が発揮して欲しい「主体性」	≠	その子なりの「主体性」
(例) すずんで話し合う ・ どの子も活発に意見を言っている		(例) すずんで話し合う ・ しっかり友達の見解を聞く ・ メモをとって話し合いの記録を残す

✓ 大人の理想が高ければ高いほど、自己評価は上がりにくい（又は付度）
✓ 子どもにとって「主体的に」取り組む価値がある教材（仕掛け）か？
✓ 様々な選択（自己決定）も同じ
「受ける」ことは大切だが、「受ねられる」価値や取組の成果（やり甲斐）は？

自己決定と自己肯定感

自己肯定感の前提条件のひとつ

教えてもらって → わかったできた → 自己肯定感
自分で決めて（考えて） → わかったできた → 自己肯定感

(失敗しても下がることはない)

紹介 コーナー

加治木工業高校の取組

～ 加治木工業高校魅力化プロジェクトの取組の様子 ～
令和6年度から「魅力ある県立学校づくり」に取り組んでいます。



共通実践項目についてアイデアを出し合う



～加治木工業高校魅力化プロジェクト～ 1月21日の話合いの様子から

- 1 魅力的な学校にするためのアイデアを出し合う
- 2 意識調査の結果から、一つの項目を選定
- 3 「あてはまる」の値をあげるための共通実践事項をする決定
- 4 学年で、「振り返りの時間」を設定し、全体で取り組むことに決定

各学校では、取組を進める中で、不明なことや疑問に思うことが出てくることと思います。ちょっとしたことでも、どうぞお気軽にお尋ねください。（市町村教育委員会、各学校からでも大丈夫です。）

【連絡先】 高校教育課学校教育生徒指導班（梶原・福元）

TEL 099-286-5532

Email seitosidou@pref.kagoshima.lg.jp

